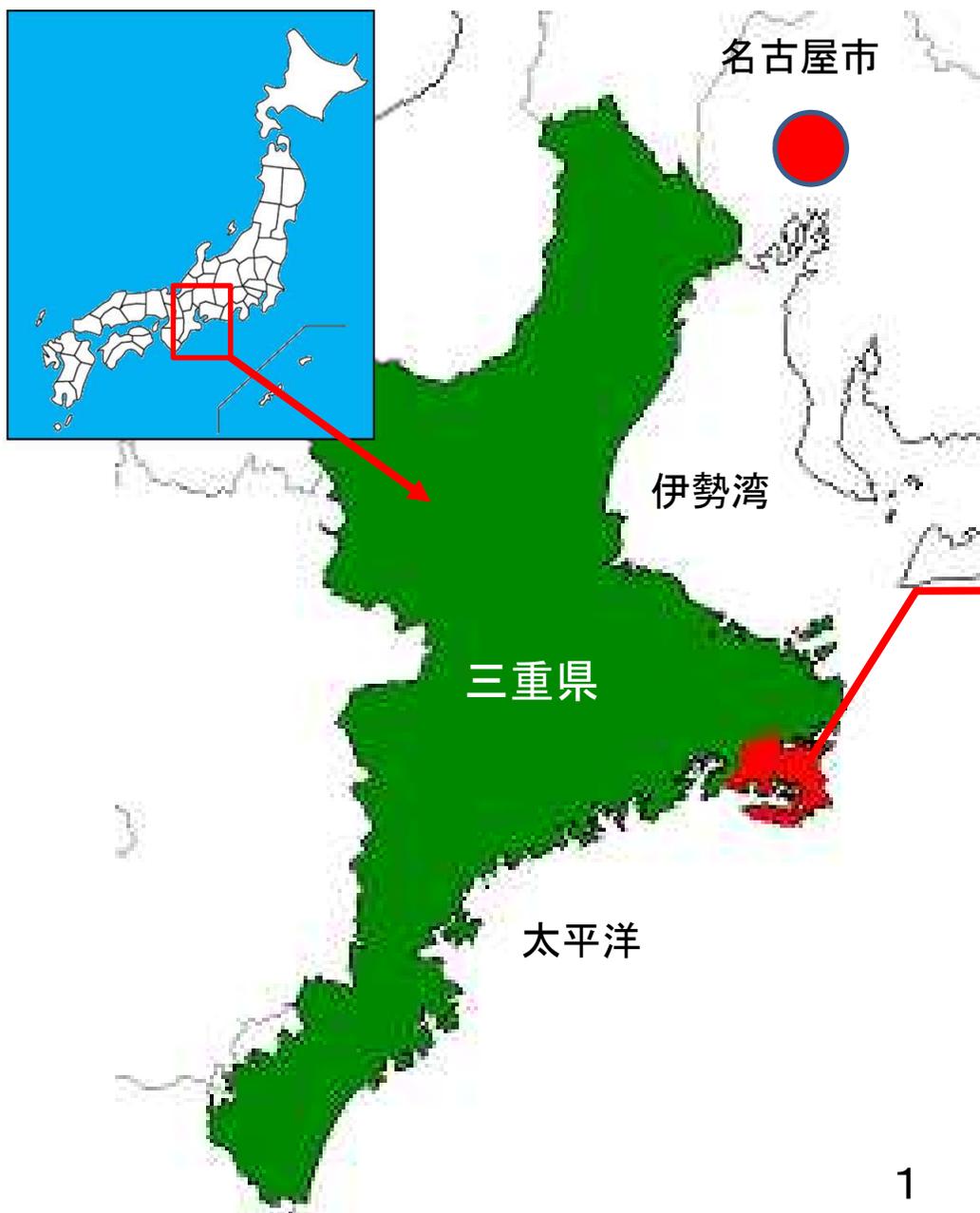


資料4

SDGsとICMの導入による 海を活かしたまちづくり

三重県 志摩市



志摩市

- ・人口：48,507人 (R2.10末登録人口)
- ・主要産業：水産業、観光業
- ・平成16年10月に5つの町が合併
- ・市の陸域全域と海域の一部が伊勢志摩国立公園に指定



G7 2016 伊勢志摩サミット開催地(志摩市賢島)



国連でSDGs採択後初めてのG7サミット。伊勢志摩宣言にはSDGsの達成に向けて取り組むことが明記された。

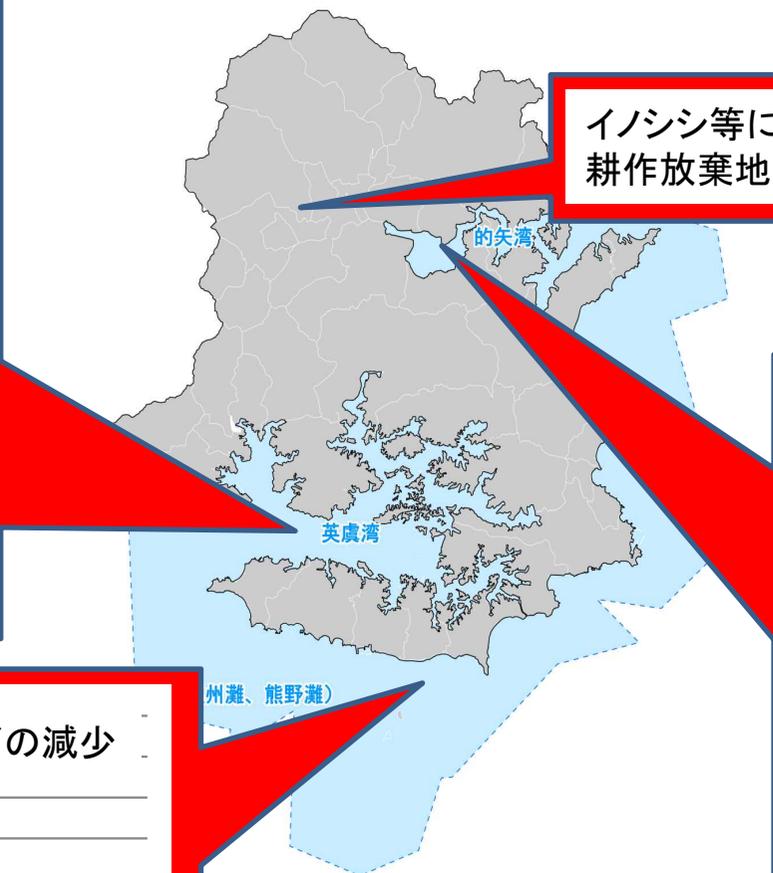
令和3年 第9回 太平洋・島サミット(PALM9)開催予定

市民の暮らしを維持していくためには
陸域と海域を一体と捉え、豊かな自然
環境を保全していくことが必要

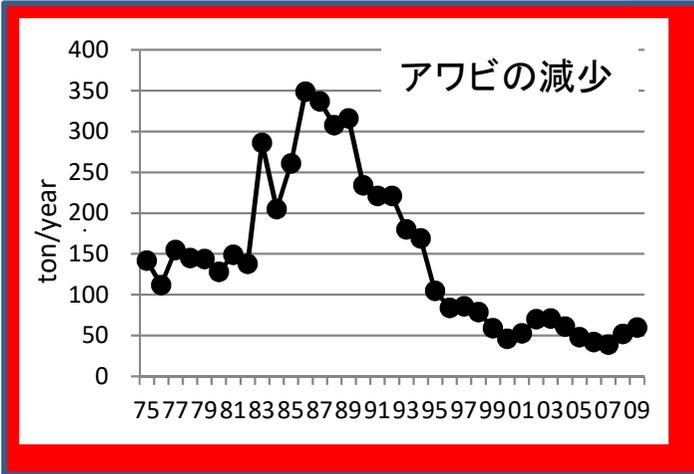
沿岸域総合管理を導入

**陸と海との環境的・経済的・社会的な
つながりを重視した地域主体の取組**

沿岸域総合管理導入の背景



イノシシ等による農作物被害が多発し、耕作放棄地が増加



志摩市里海創生基本計画【沿岸域総合管理基本計画】



本市の産業や快適な生活環境が、豊かな自然の恵みの上に成り立っていることを市民が理解する



関係者みんなで自然の恵みの利用と保全のあり方について協議し、取り組みの方向性を揃える。



保全や利用の取組を「新しい里海のまちの・志摩」の特色として活用し経済活動に取り入れることにより、志摩市のブランド力を向上する。

SDGs未来都市に選定（2018年6月）

沿岸域総合管理を導入した新しい里海創生によるまちづくりを包含し、持続可能な開発目標（SDGs）の達成を通して、地域の活性化を進めるため、志摩市SDGs未来都市計画を策定



【目標8】

自然の恵みを活かした観光産業を育成
 ・持続可能な水産物としての付加価値の創造
 ・御食国の食文化を活用したツアーの展開



【目標11】

地域や生業への誇りの醸成
 ・文化遺産・農業遺産・文化創造都市などの指定



【目標12】

人と自然が共生するビジネススタイルの推進
 ・環境に配慮した真珠養殖やゼロカーボンへの取り組み



【目標14】

伊勢志摩国立公園に指定された豊かな自然の恵みを守る
 ・先進的な水産資源管理の導入
 ・干潟や藻場の再生



【目標15】

伊勢志摩国立公園に指定された豊かな自然の恵みを守る
 ・里山資源の利用の推進



干潟や藻場の再生

きれいなだけでなく豊かな海を

豊かな海を再生するためには、陸と海との栄養の循環を再生することが必要。
英虞湾再生プロジェクトで英虞湾の環境を詳細に調査。

「英虞湾の海健康診断」で5つの処方箋を作成。そのひとつが干潟や藻場の再生。

- 市民や地域のリゾート施設と連携して、沿岸の遊休地に海水を導入して干潟を再生
- 全国アマモサミット2017in伊勢志摩を開催し、アマモ場の再生を推進
- 第41回日立環境財団「環境賞」を受賞。





先進的な水産資源管理の導入

イセエビ

市内の和具地区では「プール制」と呼ばれる共同操業を導入。水揚げを分配するとともに、漁家が刺網を2枚ずつ持ち寄って漁を行うことでコスト削減。水揚げ量や浜値の状況を確認しながら計画的に漁を行うことで、漁業経営が安定。

- 限りある海の資源を将来にわたって利用し続ける「資源管理」と「漁業経営の安定」の両面で、先進的で持続可能
- イセエビの安定供給は観光産業の安定にも寄与





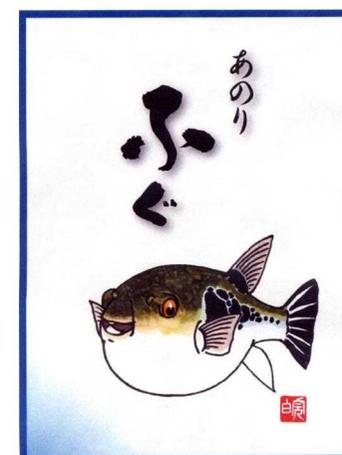
先進的な水産資源管理の導入

トラフグ(あのりふぐ)

自由漁業でありながら、昭和59年から漁業者が自主的に操業ルールを策定。
同じ資源を利用する愛知・静岡の漁業者と話し合い、広域連携を実現。
昭和61年から稚魚の放流を開始。

「あのりふぐ」の商標登録と地域の旅館・飲食店と連携した「あのりふぐ協議会」を設立。

○飲食店との連携による地産地消型の観光を実現することで、トラフグの価格が向上。
冬場はオフシーズンの旅館に多くのお客が訪れるように。



商標登録 第4699067号

海洋モビリティへの期待

○沿岸域を適切に管理していくためには科学的なモニタリングと関係者の情報共有が重要。

課題

- ・アメダスなどが整備されている陸域と比べると、海域の環境モニタリング体制はハード、マンパワーともに脆弱。
- ・市民は海中で起こっている環境変化を直接見ることが出来ず、海洋の環境変化に対する危機意識が希薄。

海洋モビリティへの期待

○藻場が激減し、生物多様性が失われている 沿岸海域の環境モニタリング

- ・日本の沿岸域をカバーする形で、水温、塩分、濁度、栄養塩濃度(N,P)などについて継続したデータの蓄積を図るとともに、海底の映像を撮影・解析して海藻やベントスの変化を定量的に把握できないか？
- ☞SDGs目標14、ターゲット2 海の生態系保全を評価するための指標として活用できる

海洋モビリティへの期待

○アコヤガイやマガキの大量へい死やノリの生産不調が起こっている内湾の養殖漁場の環境モニタリング

- ・水温、塩分、溶存酸素量、濁度、クロロフィルa、栄養塩濃度(N,P)などの水質を詳細にモニタリングし、数日後の海況を予測する「海の天気予報」ができないか
- ☞ 漁業者が実施しているモニタリングの省力化と、安定した養殖管理ができるようになる

海洋モビリティへの期待

○モニタリングを通じた海洋教育や海洋観光を推進

- ・漁業者やダイバーしか見ることのできない海中の様子をリアルタイムで見ることができれば、海洋教育や海洋観光のツールとして活用できるのではないか？

☞ 豊かな沿岸域と共生する社会を実現するための人材育成に貢献できる